

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102347		
法人名	有限会社 シャローム		
事業所名	グループホーム希望の家		
所在地	長崎県西海市西彼町小迎郷1074-3		
自己評価作成日	令和2年10月22日	外部評価結果確定日	令和2年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kajikokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4271102347-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター
所在地	長崎市弁天町14-12
訪問調査日	令和2年11月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・「夕暮れ時にも輝く人生」を理念とし「入居者が主役、スタッフは脇役」の標語のもと、尊厳をもって介護をしている
・看護師・介護員・病院が連携し、ターミナルケアに取り組んでいる
・スタッフの学びたいという気持ちを大事にし、研修・受験にかかる費用を補助している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所では、「夕暮れ時にも輝く人生」という運営理念に基づき、入居者への日々の言葉かけを非常に工夫して介護ケアが行われている。言葉かけは、チーム間での声掛けだけでなく、共用空間に貼紙を設けるなど、その環境づくりにも努めている。アメリカの大学が提唱しているニュースタート健康法に基づき、野菜中心の食事が提供されている。この食事を提供することで、入居者の健康促進を促すとともに、管理者は、食事の栄養バランスの配分や個々の食材の選別などを理論的な側面からアプローチされており、実践している。また、入居者本位、個別支援という観点から、共用・居室空間づくりや入浴・外出支援に取り組み、入居者が主役となる介護ケアが徹底されている。さらに、排泄チェック表やケアプランなどの記録物には、記号を用いた独自の作成により、入居者個々の排泄リズムを一目でわかるよう工夫が施されている。計画書の中の支援内容は、いつどこで誰が関わるのか、希望の家独自の一覧表があるため、支援の場面で漏れがないよう記録されている。これらの記録物を用いることで、入居者への丁寧な介護ケアの維持と外部の医療機関等との円滑な連携が実現されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送りの際に他のスタッフと理念を共有することで、チームとして満足度の高い介護の実現に努めている	「夕暮れ時にも輝く人生」という理念に基づき、日々の介護ケアを実践している。具体的には、毎日の朝礼時、ミーティングや申し送りノートへの記録を行い、チームで情報を共有している。中でも、入居者への言葉かけは、「～してください。」ではなく、「～しましょうか。」と意識的に変化させることで、入居者への敬意をこめたケアを実現しており、また、共用空間に貼り紙を設けて、その環境づくりにも努めている。このように、継続して理念に基づく介護ケアが行っていけるようチームで声を掛けあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出勤時、近所の方に挨拶会釈をしている。今年度はコロナの流行により行事に招待できず、交流がなかった	新型コロナウイルス感染症が流行する以前は、老人会・敬老会の開催や学童との交流、地域の保育園の運動会への参加等を行っていた。新型コロナウイルス感染症が流行して以降、地域とのつながりが希薄化されており、現状、地域と共同で行うイベント等の予定は組まれていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの影響の為出来ていない		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響の為出来ていない	新型コロナウイルス感染症が流行する前は、民生委員や社会福祉協議会、入居者とそのご家族等で、およそ10人弱の人数により運営推進会議を行っていた。現在は、新型コロナウイルスの影響で、管理者のみで書面会議を行っている。書面会議では、日々のケアでの事故報告とその改善対策やヒヤリハットを収集、公開してそのフェードバックを行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空き状況を伝える	市町村とは、入居者が退去されたときに、その情報を提供し、新規入居者の案内に努めている。また、イベントとして、花見を行う際には、市町村へ桜の開花時期についてお尋ねし、イベント実行の協力を仰ぐこともある。新型コロナウイルス感染症の流行以降、感染症に関する情報については、常時情報共有を行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には拘束はしていないが、必要に応じてご家族からの了承を得てセンサーを使用。研修に行ったり、積極的に声を掛け合い、不安や意見を尋ね対応している	身体拘束の防止を促進する委員会を設置し、主に新人職員を対象に、社内研修を行っている。新型コロナウイルス感染症が流行する前は、外部研修を設けていたが、流行後は、日々のミーティングや申し送りノートへの記載、チームで行う声かけにより身体拘束防止に努めている。	新型コロナウイルスの影響に伴い、オンライン研修が昨今増加している。現在、新人研修は行われているが、中間層やベテラン層向けの研修として、既存の研修方法の見直しに今後期待をする。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	拘束委員と共に研修を行ったり、言葉かけが荒くなってないか、態度が横柄になっていないか等、スタッフ同士で声を掛け合う様にしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	キーパーソンはいても一線を引きたい等の方もおられ、市の安心サポート等を利用できる事を伝えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居退居時は契約書や重要事項説明書によりわかりやすく説明を行い、利用者やご家族に不安や疑問点がないか尋ねる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが、なかなか意見がでない。来所の際会話の中で相談を受けている	入居者のご家族とは、LINEを活用し、テレビ電話や通常電話にて意見聴取の機会づくりに努めている。衣類の調達や食に関する要望等、ご家族より依頼があれば、速やかに対応している。希望の家が独自に作成しているお便りを2か月に1度ご家族へ送付し、イベント情報や職員情報等を公開している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が代表へ報告したり、直接職員から代表へ話したり出来ている	独自に作成した評価表に基づき、全職員と毎年3月に定期面談を行っている。また、代表者は、介護の現場へ足を運び、現場職員と接する機会が多いため、直接代表者へ職員の意見が話される時もある。これらの機会に得た意見に対し、代表者及び管理者は、柔軟に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が個々の状況を把握し全員がうまく回る様努力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響の為出来ていない		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人と相談し興味のある事、趣味等を聞いてコミュニケーションがとれる様なプランを考えている。無理なく安全に出来る範囲で行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面会や電話、手紙等さまざまな手段で要望を聞き、関係作りに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の意見を取り入れ、スタッフミーティング等で意見を交わし、情報の共有を統一する事でより良いサービスを提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一つ一つ必ず説明し、同意を得て行動する事で関係を築く		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との面会やテレビ電話で情報を共有し、ご家族と協力し支えている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族からのハガキ、手紙、季節の写真が届いている。また、ふるさと訪問を行い、住んでいた土地を訪れ、関係が途切れない様になっている	当事業所は、西海市の方に入居者を限定しているため、馴染みの場所は、基本的にドライブで行ける距離にあり、頻繁に外出ができる。新型コロナウイルス感染症が流行する前は、近所の方や友人が希望の家を訪れることがあったが、流行後は、そのような面会はなくなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士がそれぞれの場面で会話やテレビを楽しみ、また、ひとつの円になって一緒に体操をしたり、お互いが支え合えるようにしている。トラブルがあれば職員が入り、他の入居者とうまく関わり合いが出来る様支援している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームの訪問や、外部で会った時に近況を伺ったり相談にのったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えに耳を傾け、その時の状況で対応している。ご家族とも話し合い、希望に沿った支援を行っている。また、本人にも選択して頂き対応を変えている	入居者の思いや意向を把握する手段としては、入居前のアセスメント時に生活歴や望む生活の在り方を聴取するようにしている。但し、一度に全ての情報を得ることは困難であるため、入居後に信頼関係を築きながら情報収集している。意思疎通の困難な入居者の場合は、ご家族から意向を確認したり、入居者のしぐさや表情から想いを汲み取るよう努めている。管理者は入居者が入居する際に、可能な限り望む生活を送ることができるように、関わり方等を工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に詳しく情報を聞き、本人やご家族との会話を通して生活歴の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	手作業、行動、ケアプラン等で観察する。気になる言動・行動は報告し合い、情報を共有する事で入居者の変化に気づく事が出来る		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族、担当者がそろって話す機会を設けている。定期的に本人の状態をご家族に伝え、ご家族、本人の希望に耳を傾けケアに取り入れる	計画作成担当者が計画書を作成する過程において、職員は月に1回のスタッフミーティングの場で、入居者の状況確認をする機会を設けており、この情報を基に計画書の内容を検討するようにしている。また、計画書の中の支援内容については、いつどこで誰が関わるのか、事業所の独自の一覧表があるため、支援の場面で漏れがないような工夫が施されている。また計画書の見直しの段階で、入居者やご家族との意見交換を実施して、入居者本位の計画書作りを実践している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の中で変化があれば、申し送り等で情報を共有し、介護計画を見直したり毎月のモニタリングで見直ししている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人ご家族のニーズを受け入れ、他ホームの意見も取り入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアによるコンサート、買い物支援 (現在はコロナで中止)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に本人やご家族と話し合い、かかりつけ医を決めている	かかりつけ医の選定については、入居する際にご家族を中心に話し合っ決めて決めるようにしている。入居者やご家族の意向を尊重しているため、適切な医療的支援を受けられる体制が整っている。受診の際にご家族が対応する場合は、事業所での生活の様子やバイタルチェック表、排泄状況等を紙面で提供するようにしている。突発的な医療的関与があった場合は、職員が対応した後にご家族へ電話等で連絡を行うようにして情報の共有を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の変化を看護師に相談し、適切な医療的ケアを受けられる様支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には医療との連携を密にとっている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	健康状態の悪化がみられた場合はご家族への連絡を行い、今後の方向性を話し合う機会を設けている	希望の家開設以来、看取りは持続的に実施しており、2020年中に約3件の看取りを行っている。看取りの際にはご家族や医療職員との連携が重要とのことで、経過を繰り返し確認しあう等密な関わりを持っている。看取りや重度化に関する方針は「重度化した場合における看取り指針」や「看取りについての同意書」で確認することができた。看取りを終えた後は、月に1回のスタッフミーティングで必ず振り返りを行うようにして、職員を労ったり、看取りの過程で課題がなかったか、意見を出し合う等共有を図る場を設けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年一回の救急救命講習を実施		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	防災対策委員を構成しており、避難訓練や必要備品の整理等を定期的に行っている	災害対策については防災対策委員会を中心として、避難訓練や防災対策の計画、立案、実行、評価を行っている。備蓄に関しては各ユニットにおおよそ3日分食料等を準備していて、先日は備蓄品を実際に調理してみて、課題抽出をしたとのことであった。今年接近した2つの台風の際も、少なからず被害が発生したとのことで、今後、自然災害対策にも重点的に取り組んでいくとのことであった。	風水害を想定した訓練は実施しているものの、記録で確認することができなかった。今後、火災発生時の避難訓練同様に、記録を残していくことが望ましい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人生の生き方を尊重し敬い、心穏やかになる様、心遣い声掛けを行っている	入居者に対する敬意を形にするため、特に声掛けには注意を払っている。職員が意識して声掛けできるように、各ユニットの目につく箇所に声掛けに関する標語を貼っている。入居者に対する声掛けについて改善の余地がある場合は、管理者より指導を行い、どのように伝えれば良かったのか、代替のやり方まで丁寧に伝えるようにしている。また、入居者が肌をさらす入浴や排泄支援の場面では、特に注意して支援にあたるように日々意識を高めているとのことであった。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人の行動・表情を伺い尋ねたりして、自己決定を促している。入浴等自己決定が出来る様な声掛けをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを尊重しつつ、希望に添えられる様に心掛け、見守り支援に努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみのくずれがないよう、その人らしい服装になるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭き等出来る作業を手伝ってもらっている。何が食べたいか尋ねたり、楽しみな食事になる様努めている	食事の提供についてはアメリカの大学が提唱しているニュースタート健康法に基づき、野菜中心のメニューにて、日々食事提供している。食事はリビングと対面にあるキッチンで作っているため、匂いや食材を刻む音等、入居者にとっては毎食楽しみの1つになっている。また、職員は入居者が食に対して興味関心を持ってもらうように、食べたいものはないか普段の会話の中から自然に尋ねたり、すぐに作れないメニューは購入して提供したり、ぼた餅等の季節感のあるものを提供したりしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は測っており、一日の水分量が把握出来ている。食事野菜を主とし、バランスの良い食事を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	その人その人に合わせた口腔ケアを行っている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の身体、精神面を配慮しつつ、安心して排泄が出来る援助から、自立に向けた支援に結び付けている	排泄の自立支援に向けて、排せつチェック表を基にして、各入居者の排せつのリズムを把握している。また、入居者は基本的に日中、布の下着着用をして必要な入居者にはパットを当てるようにしている。リハビリパンツを着用しなくても、個々の排せつ支援を行うことで失禁回数は軽減したり、皮膚疾患につながらないよう、配慮しながら支援をしている。また、排せつの記録と同時進行で飲水量も記録に残っていて、インアウトの両面から健康管理を実践している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食の食材を工夫し水分調整に取り組み、それぞれの体調や有病にあった対策援助を行う。排便チェック表を活用し、予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に合わせる事は出来ないが、毎日の健康管理に努め、入居者がくつろげる様な入浴時間を提供している	週に5日を入浴日として設定していて、各入居者はおおよそ週に2, 3回入浴しているとのことであった。毎日入浴をしない理由としては、入居者と普段できないことを一緒にする日を設定したいという想いがあるためである。快適に入浴ができるように、浴室と脱衣室の温度差が大きくなるように、特に冬場は配慮したり、また、季節感を感じることもできるように、菖蒲湯や柚子湯等の提供も行っている。入浴することがあまり好きではない入居者への対応として、「お風呂に行きますよ」の声掛けではなく、自然と浴室に誘導したり、トイレで入浴の声掛けをすると拒否することなく誘導できたり、入居者個々に合わせた対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室・たたみ・ソファ等、安心できる場所でゆっくりと休息して頂いている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフ間で誤薬がない様、重複チェックを行っている。便秘薬の調整も行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自分に出来る事をそれぞれやって頂く事で自信を持っていただき、ひとつの作業・作品をやり遂げていただく事で生きがいに繋がっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出できない為、夕涼みや建物周辺を散歩したりする様なプランを作っている	今年に入ってから新型コロナウイルス感染拡大の影響で、多頻度に外出ができていない状況である。このような中でも気候のいい時期は、敷地内を歩いたり、陽当たりの良いところで外気浴を行っている。日光浴は計画的なものではなく、その日の入居者の希望や気候等に合わせて、柔軟に実施しているとのことであった。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を持っている方もいて、欲しいものを注文したりしている(スタッフへ依頼)。 ヤクルト・新聞・雑誌等		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	LINE電話を使い表情もみれる様に支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけ等で季節感を出している。リビングでは心地よく過ごせる様、テーブルやイスの配置を工夫している	共用の空間は広い上に陽当たりがとても良く、対面式のキッチンからの匂いや音は、家庭的な雰囲気をより一層引き立てている。各ユニットで飾り付けや配置は異なっており、それぞれの個性を醸し出している。3ユニット共通して言えることは、気温や湿度に大変気を使っている点と、生花や観葉植物を飾って空間にアクセントを付けている点であった。総合的にとても清潔感を感じることもできる空間で、入居者にとってくつろぐことのできる居場所であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビを観たり手作業したりと、思い思いに過ごされている		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や自宅で読んでいた本を持ち込まれている。また、ホーム内で撮った写真や家族写真等を掲示している	各入居者の居室は、思い思いの品や希望に応じてテレビを設置する等、危険が及ばない限り、自由に持ち込みができるとのことであった。ご家族の写真がたくさん飾ってある部屋や、テレビが設置してある部屋、あまり物を置きたくないということでシンプルな部屋等、入居者やご家族の希望に沿って個性が表れている。いくつかの居室に置いてあるポータブルトイレ全てにカバーがかけてあった。このようなちょっとした配慮は随所で確認することができて、入居者に対する支援内容にも反映されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室照明等自由にリモコン操作できるようにしている。トイレ等の場所がわかるように大きな文字で書いてある		